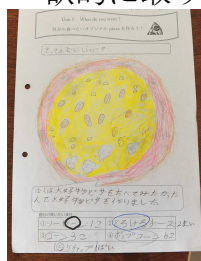


南小立野小学校	小学校教科推進校	教科（英語科）
---------	----------	---------

## 1 研究の重点と具体的な取組

### (1) 重点1 言語活動の効果的な設定の工夫

・児童の「言いたい」「聴きたい」「伝えたい」という気持ちを高めるコミュニケーション活動を設定した。4年生の授業では、自分の食べたいピザを作るために材料を集める活動をした。活動の目的がはっきりしていたため、意欲的に取り組むことができた。



一人ひとり自分の  
思いのこもった  
オリジナルピザ



材料を集める  
ために、夢中  
でやり取りを  
する姿

・単元のゴールの明確化と共有化をすることで、児童は自分のなりたい姿をイメージしながら学習を進めることができた。6年生では、絵カードを使って話したい内容を確認することで、既習で言えること、表現したいけどまだ言えないことを共有した。



- ← 住んでいる所（既習）
- ← 通っている学校（言えそう）
- ← いつもしていること（初めての表現）
- ← 自分の宝物（初めての表現）

・クラスルームイングリッシュ、歌やチャンツの活用として、毎回の授業以外に年2回今月の歌として全校で英語の歌に親しんだ。

### (2) 重点2 教材・教具の効果的な使い方の工夫

・ショートタイムでは学年共通カードを使用し、学級間格差無く語彙を増やしていくことが出来るようにした。

・オリジナル教材の開発として、児童が関心を持つことと、活動しやすいことを考えたワークシートやカードを作成した。5年生では、教科書で地図記号になっていたものを建物のイラストにして、地図記号に抵抗感を感じている子も活動に意欲的に参加できるようにした。



## 2 取組の検証

児童英語アンケートでは、低学年も高学年も「英語が好き」という項目において肯定的回答が83%と高かった。また、「英語の授業は楽しい」の項目においても、肯定的回答が低学年において85.9%、高学年において89.7%とどちらも高かった。高学年では、英語の授業で楽しいことの原因として、「英語でゲームをしたり、歌ったりすること」「英語で友だちと会話をする」「日本と外国の違いを知ること」が多く挙げられていた。また、「英語が使えるようになりたい」と前向きに学習に取り組んでいる児童も低学年で89.8%、高学年で93.4%と多くいることが分かった。

### 低学年集計結果（1～3年生）

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない
英語が好き	56.1	27.5	8.5	7.1
英語の授業は楽しい	63.2	22.7	7.5	5.8
英語が使えるようになりたい	77.9	11.9	3	7.1

### 高学年集計結果（4～6年生）

	そう思う	どちらかという とそう思う	どちらかという とそう思わない	そう思わない
英語が好き	42.2	40.5	11	5.9
英語の授業は楽しい	55.4	34.3	6.6	3.5
英語が使えるようになりたい	75.4	18	3.8	2.4
将来英語は役に立つと思う	75.1	18.7	3.8	1.7

教員アンケートから、低学年では「楽しい活動が子どもの意欲を引き出すことにつながった。」、中学年では「教師自身が既習表現や単語を意識的に使うようになった。」、高学年では「つけさせたい英語力を意識して指導計画を立てられた。」と重点を意識した指導ができたという意見があがってきた。

## 3 成果と課題

今年度の取組の成果として、児童の興味・関心に合った内容を取り上げることで、意欲を持続して活動したり、理解を深めたりすることができることができた。加えて、活動のわかりやすさが、意欲や楽しみにつながることもはっきりした。何より良かったのは、英語の授業を楽しみ、将来に向けて前向きに学習に取り組んでいる児童が多くいることであった。課題は、積極的にコミュニケーションを取りたいと感じている児童を満足させるような活動の工夫や、学んだことを生かす場の工夫が足りなかったことである。来年度以降は、そんな児童の意欲を満足させられるような授業づくりに取り組んでいきたい。

